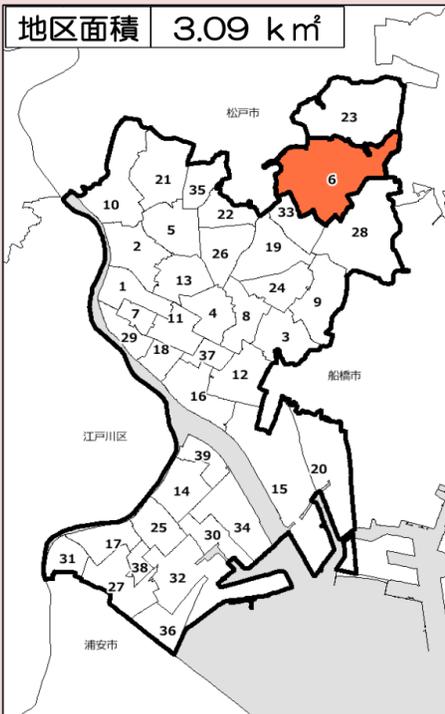


6 大柏小学校区

(1) 位置



(2) 地区概況

◆位置

大柏小学校区は市の北東部に位置し、地区の南東側は大柏川に面し、一部地区内を横断しています。東側に鎌ヶ谷市、西側に松戸市が隣接しています。

◆地形・土地利用

地形は、台地と氾濫平野で構成され、高低差があります。地区の中央は、第一種低層住居専用地域等の住宅地となっており、戸建て住宅等が建ち並んでいます。また、武蔵野線市川大野駅を周辺は近隣商業地域となっており、商業施設も立地しています。市街化区域と市街化調整区域が混在しています。

◆都市基盤

地区内の武蔵野線沿線の一部は、土地区画整理事業により整備されています。地区の北西から南東にかけて県道9号線が通っています。地区内には大野緑地等の都市緑地があります。また、地区の北西から南東にかけてJR武蔵野線が通っており、市川大野駅があります。地区内には、JR本八幡駅行きの京成バスや市川市コミュニティバスが通っています。

(3) 人口・建物概況

◆人口

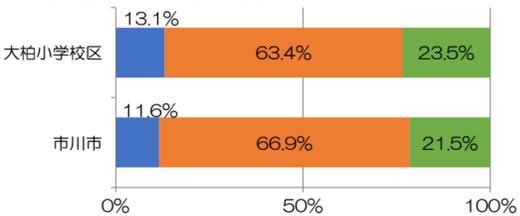
年齢別割合

	大柏小学校区	市川市	割合※
人口総数	13,744人	492,564人	2.8%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

平均値 12,630人

平均値：39地区の平均値を示しています。



■ 0~14歳 ■ 15~64歳 ■ 65歳以上

地区の人口は、全地区の平均人口よりやや多いです。市全体と比較すると0~14歳と65歳以上の割合がやや高く、現役世代がやや少ない地区となっています。

◆建物

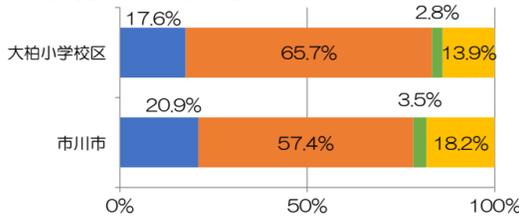
構造別割合

	大柏小学校区	市川市	割合※
建物総数	4,398棟	107,267棟	4.1%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

平均値 2,750棟

平均値：39地区の平均値を示しています。



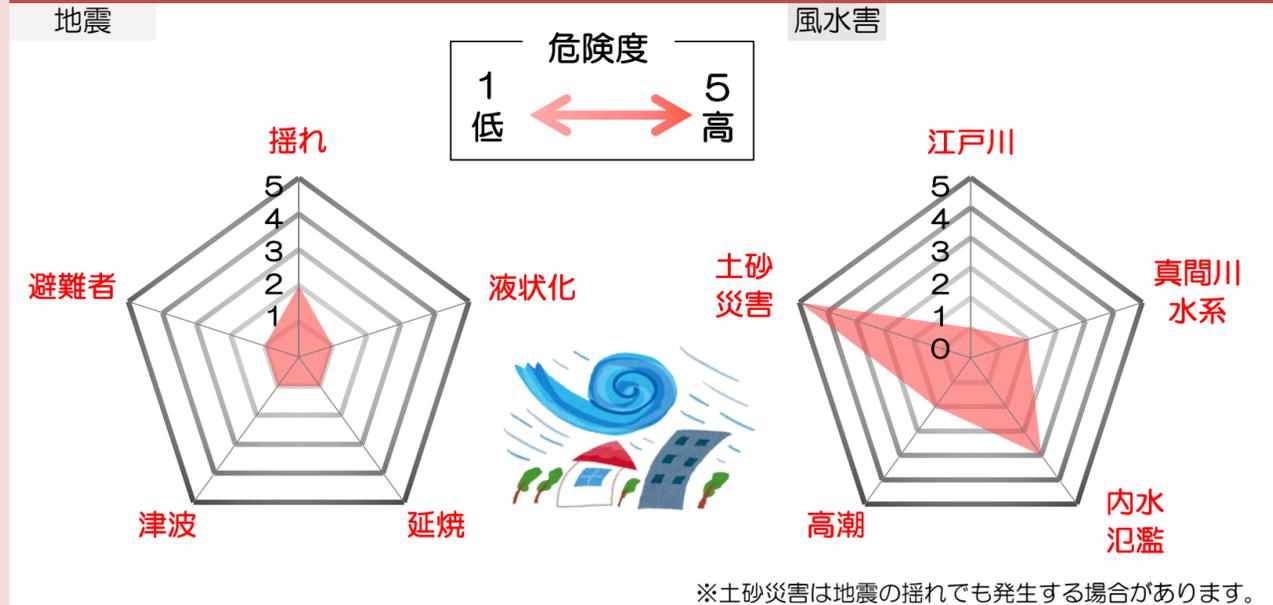
■ 昭和55年以前(木造) ■ 昭和56年以降(木造)
■ 昭和55年以前(非木造) ■ 昭和56年以降(非木造)

地区の建物は平均より多いです。市全体と比較すると昭和56年以降の新耐震基準の建物割合が高いです。また、木造建物がやや多い地区となっています。

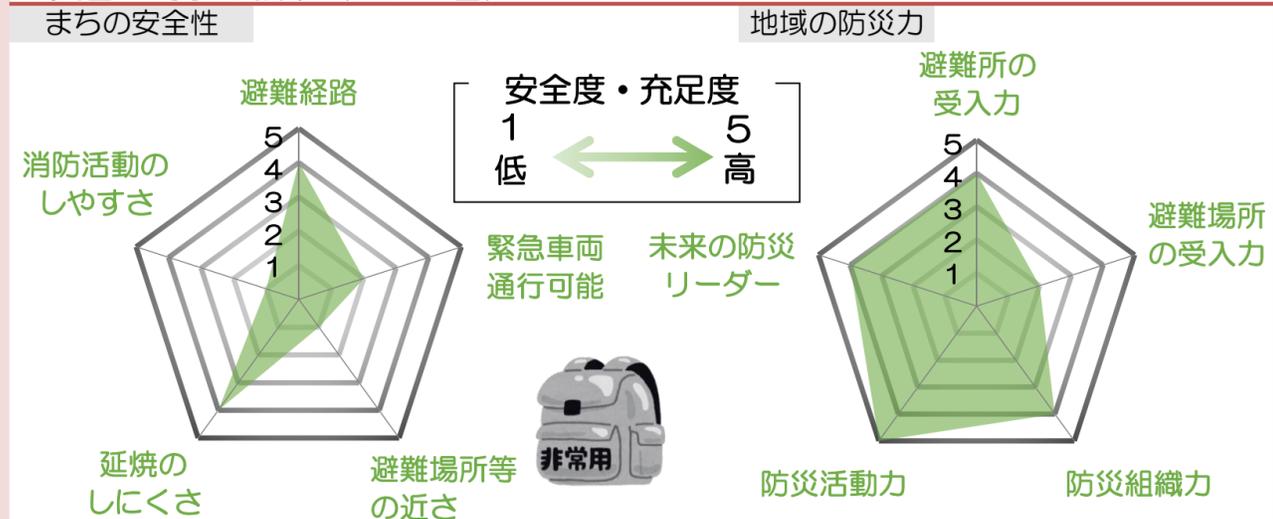
(4) 災害リスク評価

災害に対する弱み（マイナス）については、5に近づくほど危険度が高くなり、災害に対する強み（プラス面）については、5に近づくほど安全度や充足度が高くなります。災害リスクは、後述の地震被害想定や浸水想定の結果、各地区の現況データを用いて相対的に評価しています。

◆災害に対する弱み（マイナス面）



◆災害に対する強み（プラス面）



◆評価

大柏小学校区は、地震災害については、地盤が軟弱な低い土地では最大震度6強の揺れが予測され、揺れによる危険性があります。風水害については、地区内に土砂災害警戒区域等があることから土砂災害による危険性が高い傾向にあり、低い土地では浸水の危険性があります。一方で、まちの安全性については、避難経路、延焼のしにくさは高い傾向にあるものの、緊急車両通行可能道路の充足度、避難場所等の近さ、消防活動のしやすさは低い傾向にあります。また、地域の防災力については、避難所の受入力、防災組織力、防災活動力、未来の防災リーダーは高い傾向にあるものの、避難場所の受入力は低い傾向にあります。

(5) 防災関連施設

◆避難所及び福祉避難所

施設名	福祉避難所	施設名	福祉避難所
大柏小学校	-		
第五中学校	-		
梨香園	○		
葵の園 市川	○		
市川あさひ荘	○		

◆避難場所

名称
大柏小学校
第五中学校

◆地区内の主な施設

種別	施設名	施設名	種別	施設名
要配慮者利用施設(公設)	なし		医療介護所	なし
			関連施設	大野駅前交番
			-	
			-	



(6) 被害想定結果(地震・風水害)

◆地震災害(被害を受ける割合)

想定項目	大柏小学校区	市川市全体	
建物被害	全壊棟数の割合(揺れ・液状化・急傾斜地崩壊)	2.1%	4.8%
	半壊棟数の割合(揺れ・液状化・急傾斜地崩壊)	7.3%	11.8%
	焼失棟数の割合	0.9%	10.2%
	浸水棟数(津波)の割合	0.0%	1.1%
人的被害	死者の割合	0.0%	0.1%
	負傷者の割合	0.2%	0.4%
	避難者の割合	5.2%	20.0%



◆風水害(被害を受ける割合)

想定項目	大柏小学校区	市川市全体	
建物被害	浸水棟数(江戸川)の割合	0.0%	52.9%
	浸水棟数(真間川)の割合	18.9%	47.7%
	浸水棟数(内水)の割合	49.6%	57.9%
	浸水棟数(高潮)の割合	2.6%	64.9%



市全体の結果と比較すると、地震災害については、新耐震基準の建物割合が高く、地形が台地であることもあり、建物被害は少ない傾向となっています。また、人的被害についても、市全体より少なくなっています。

一方で、風水害については、近くに大柏川が流れていることから、低地部では真間川水系の氾濫による影響や内水氾濫による影響を受けるものの、地形が台地であることもあり、市全体と比較して浸水棟数は少なくなっています。

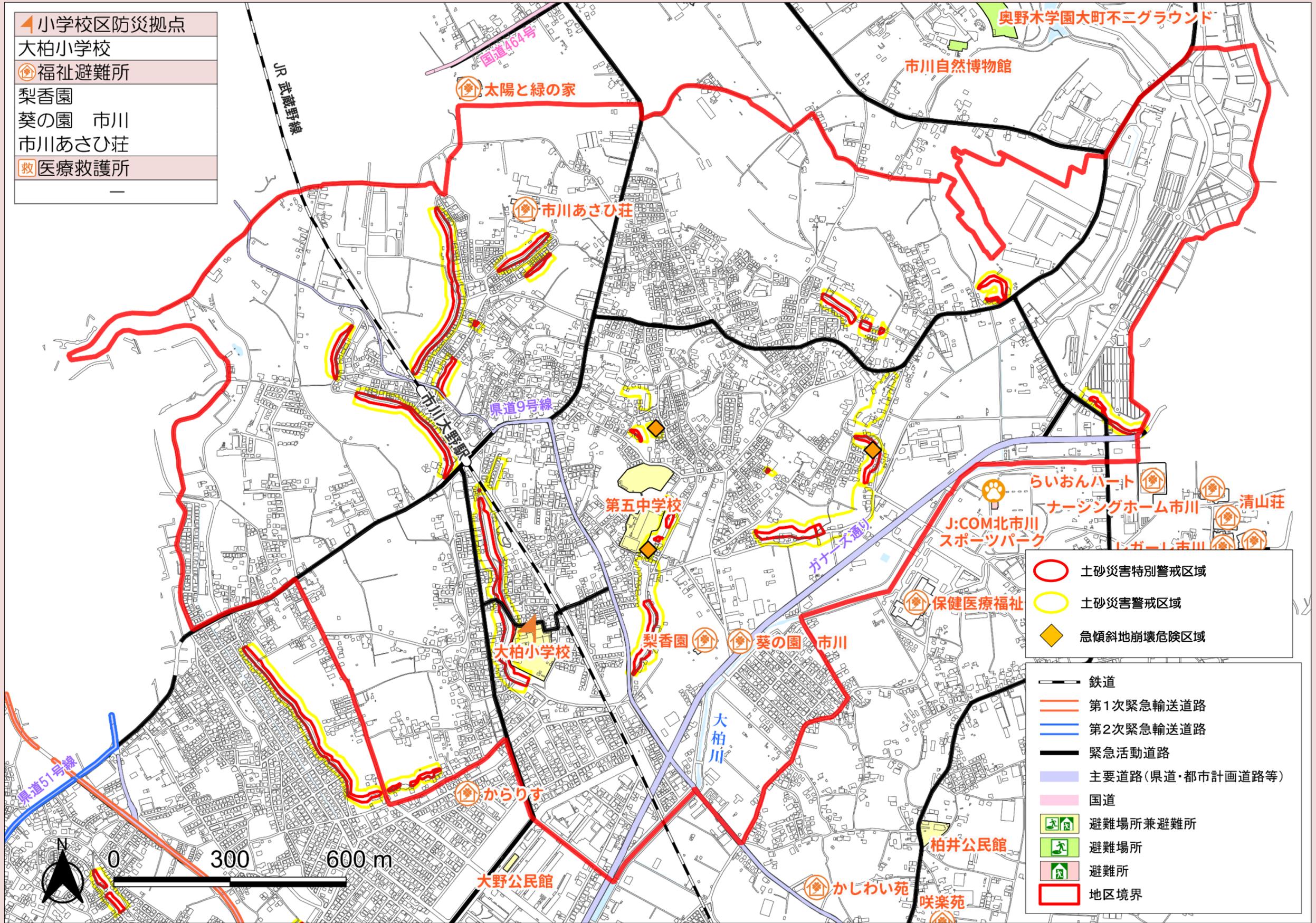
(7) 防災上の課題

項目	課題
地震	地区内において、最大震度6強の揺れが予測され、土砂災害警戒区域等があり、過去には液状化による被害も発生していることから、土砂災害発生時の避難対策や家庭での備蓄対策等が必要です。
風水害	地区内に真間川に合流する大柏川が流れていることから、低い土地は河川氾濫による浸水被害や内水氾濫の恐れがあり、浸水対策や円滑な避難に備えることが重要です。また、土砂災害警戒区域等があることから、土砂災害発生に備えた避難対策が重要です。
まちの安全性	地区には、狭い道路が多いことから、緊急車両が通行可能な道路が重要です。また、避難場所等へ徒歩10分程度以上かかる地域が多いことから、あらかじめ避難経路について検討しておくことが重要です。さらに、消防水利の充足が低く、消火までに時間を要することが考えられ、初期消火の対策等が重要です。
地域の防災力	地区には、避難場所の充足度が低いことから、災害発生時は避難場所が混雑する可能性があります。他の避難場所や広域避難場所の確認が重要です。

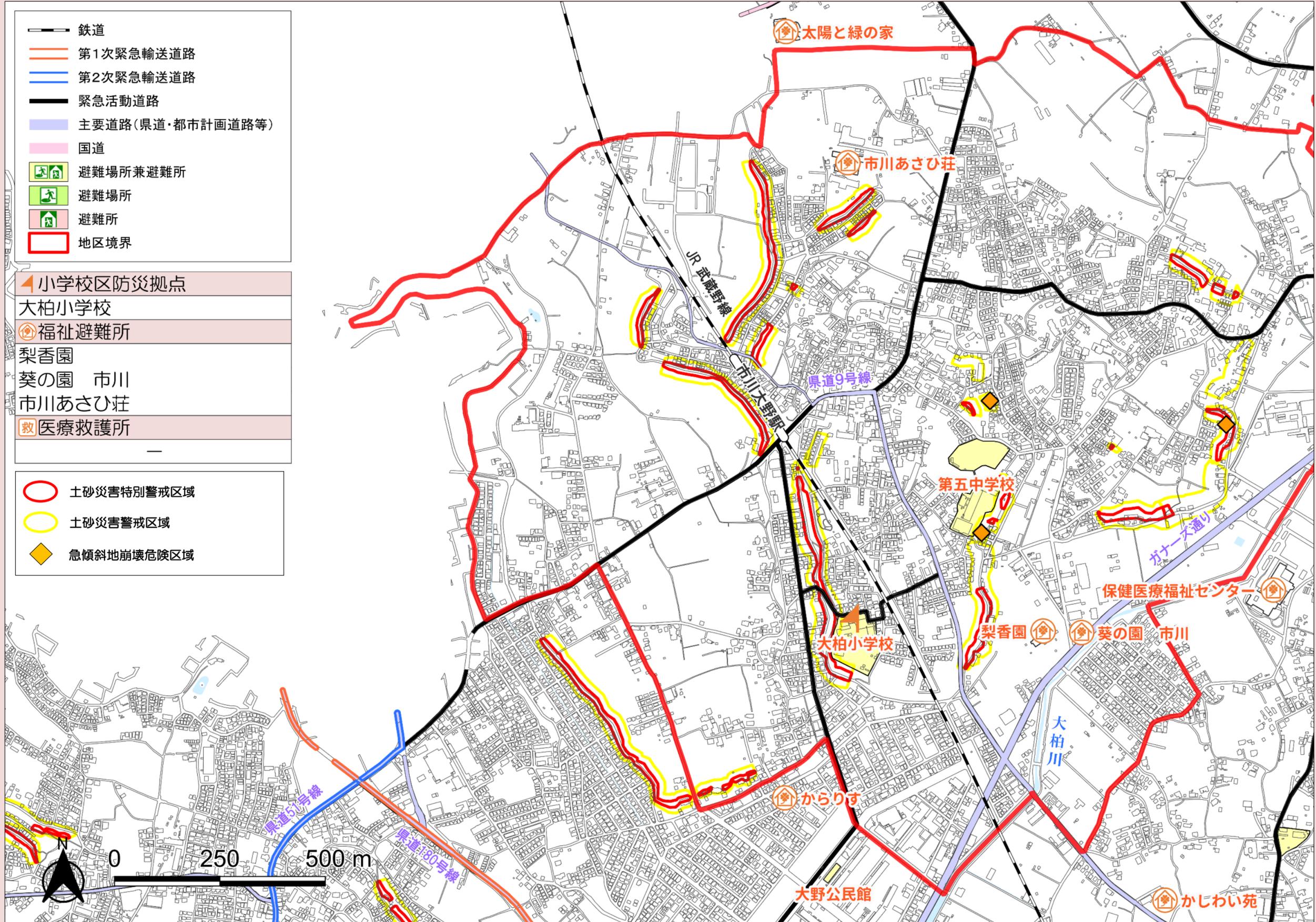
(8) 防災対策の方向性

項目	取組の方向性
地域の取組	地区内には、狭い道路が多く、緊急車両が通行可能な道路の確保が大切であることから、市の助成制度である「危険コンクリートブロック塀等除却」や「生垣助成」の助成を利用し、ブロック塀等の倒壊を防ぐことが効果的です。 災害時に負傷者や火災が発生した場合、即座に応急手当や初期消火ができるように、高い防災組織力を活かし、地域で初期対応の訓練を実施するなどの対策が効果的です。 土砂災害の危険性も考えられることから、あらかじめ地域間で危険箇所等を共有しておくことが重要です。
個人の取組	地震に対する備えとしては、家具の固定、ライフラインの途絶に備えあらかじめ飲料水等の備蓄をしておくなど自宅(家庭)の防災性を向上させることが効果的です。 消防活動のしやすさが低いことから、住宅用消火器を設置する等、初期消火等の対策を行うことが重要です。また、住宅用火災警報器の設置を行う等、火災発生時の逃げ遅れ対策を行うことが重要です。 一方、風水害に対する備えとしては、市の助成制度である「あんしん住宅助成」を利用した防水板の設置や、土のうステーション等を活用した浸水対策とともに、いざという時円滑に避難できるよう、市からの情報収集方法や浸水想定区域外の避難場所等をあらかじめ水害ハザードマップ等で確認しておくことが効果的です。

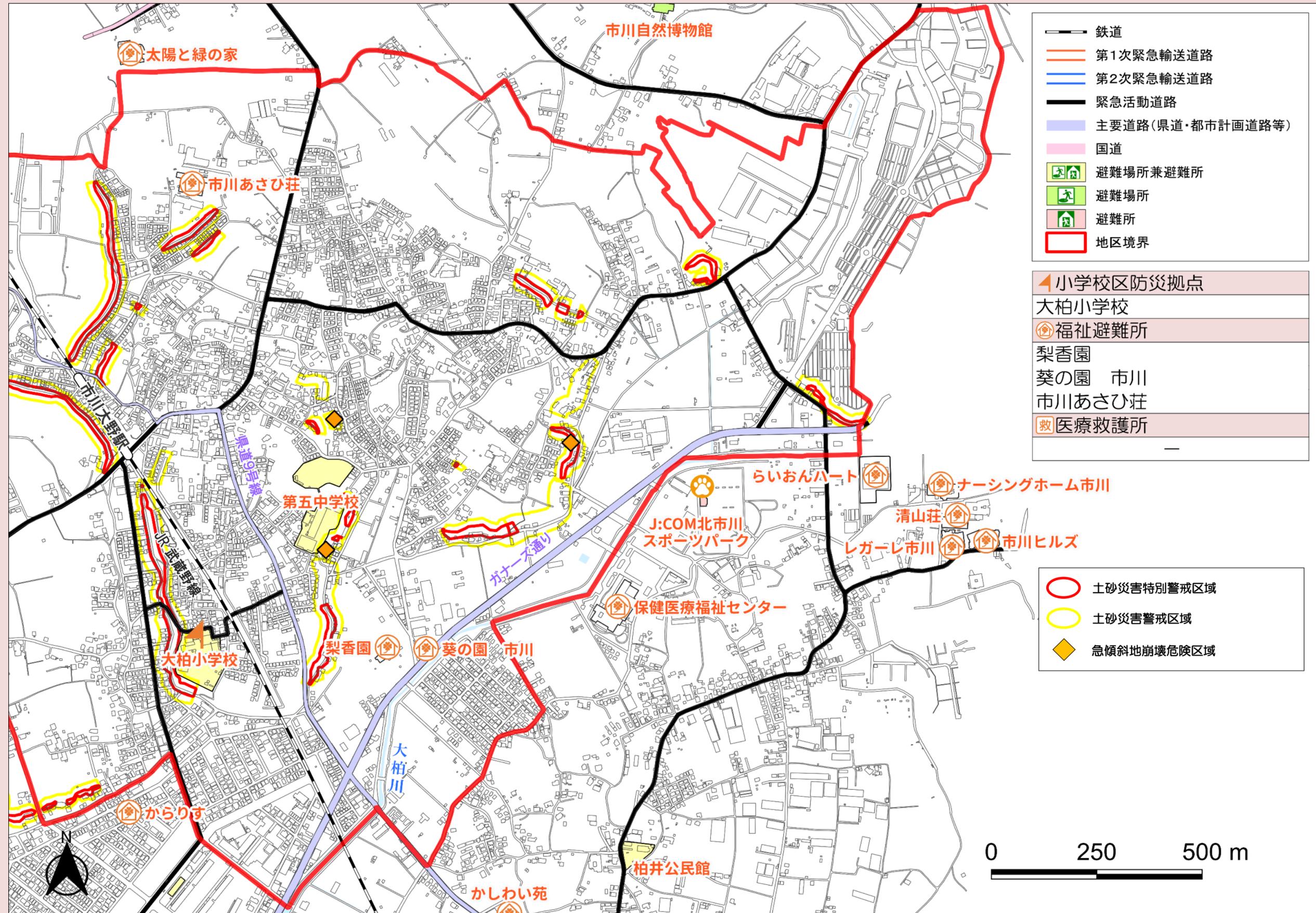
(9) 防災マップ



(9) 防災マップ①



(9) 防災マップ②



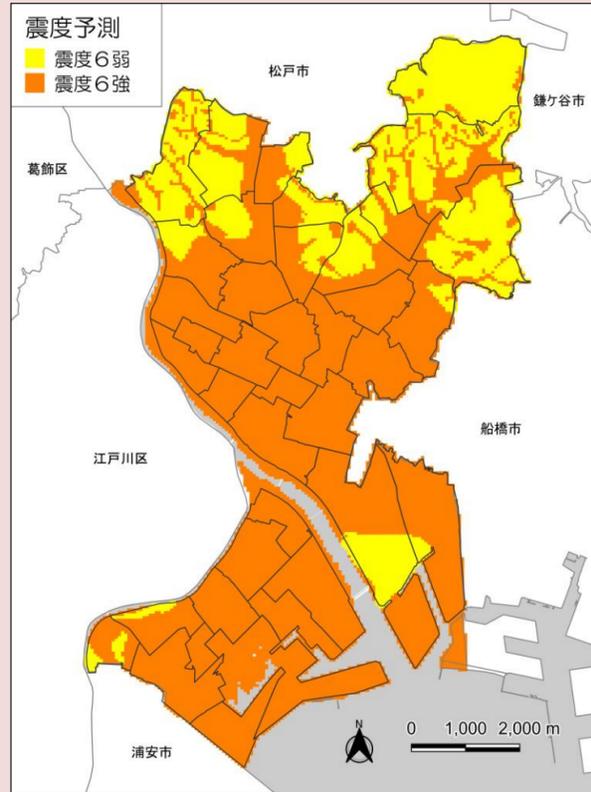
- 鉄道
- 第1次緊急輸送道路
- 第2次緊急輸送道路
- 緊急活動道路
- 主要道路(県道・都市計画道路等)
- 国道
- 避難場所兼避難所
- 避難場所
- 避難所
- 地区境界

- ▲ 小学校区防災拠点
- 大柏小学校
- 福祉避難所
 - 梨香園
 - 葵の園 市川
 - 市川あさひ荘
 - 医療救護所

- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域
- 急傾斜地崩壊危険区域

(10) 基礎資料

①市全域の震度分布図



本カルテには、東京湾直下を震源域とする地震が発生した場合の結果です。
震度分布図を見ると、市の南部を中心に広く震度6強と予測されています。

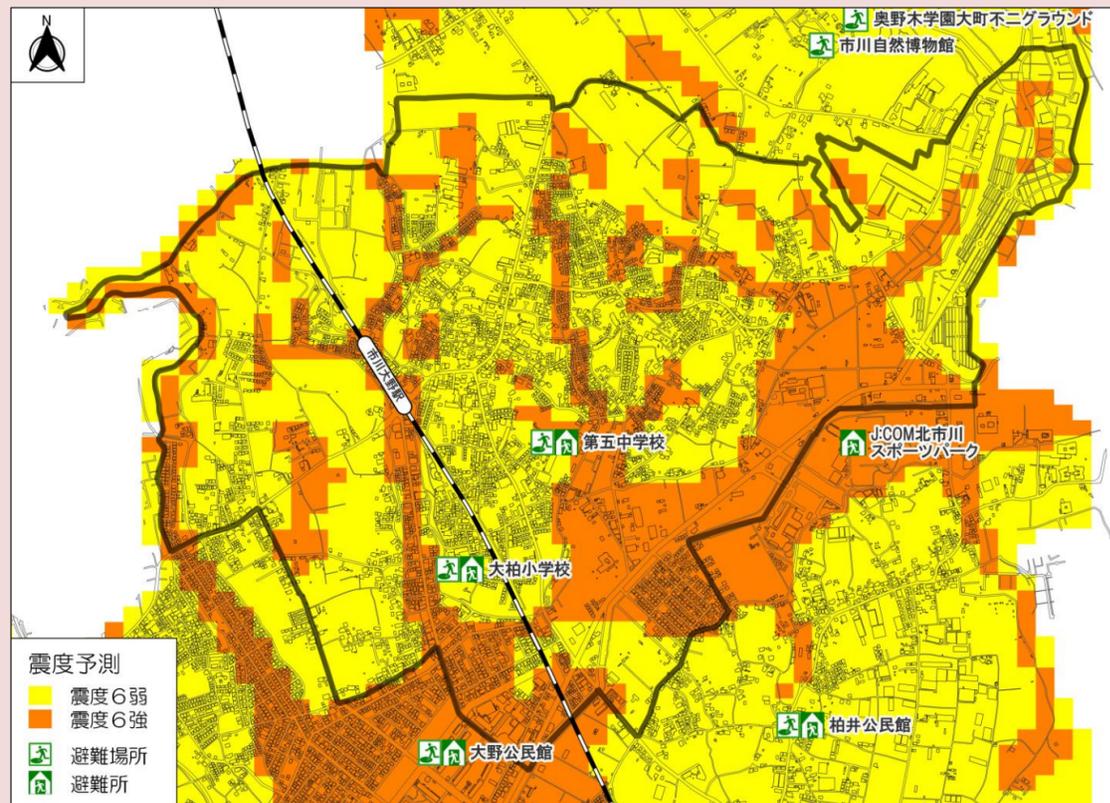
想定地震	東京湾直下地震
マグニチュード	7.3 (震源深さ：48km程度)

▼震源

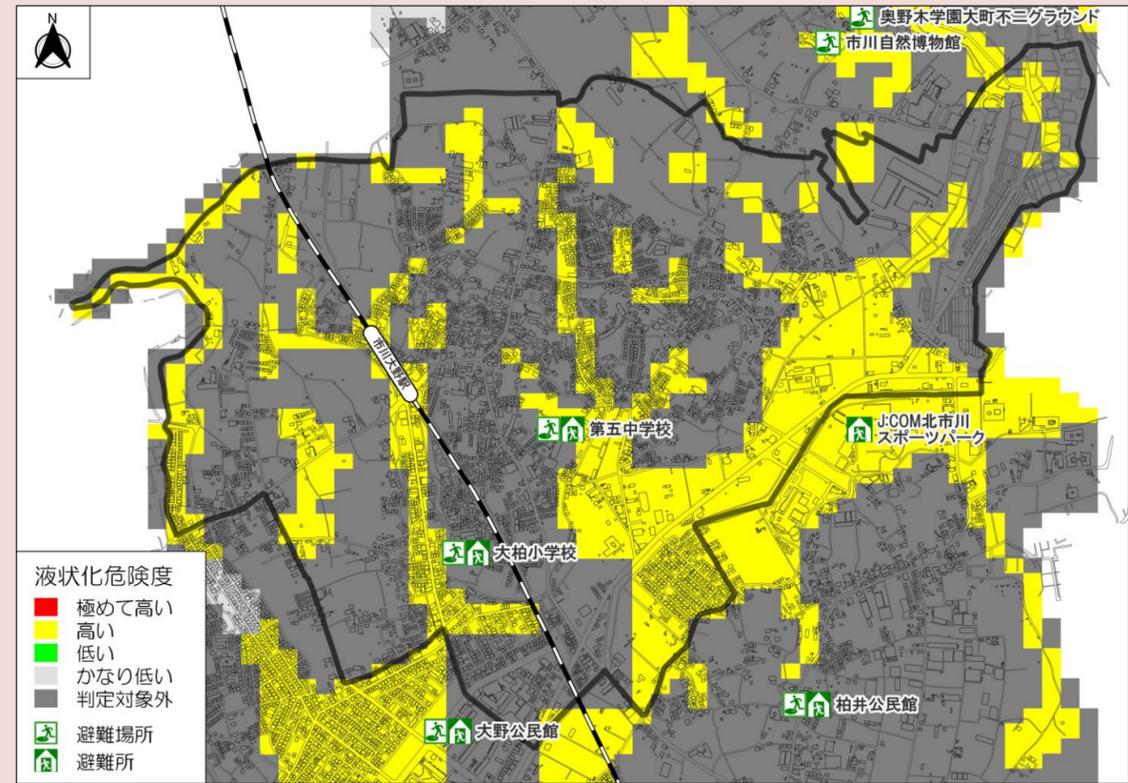


※本結果は市川市地震被害想定結果（令和5年度）に基づいています。

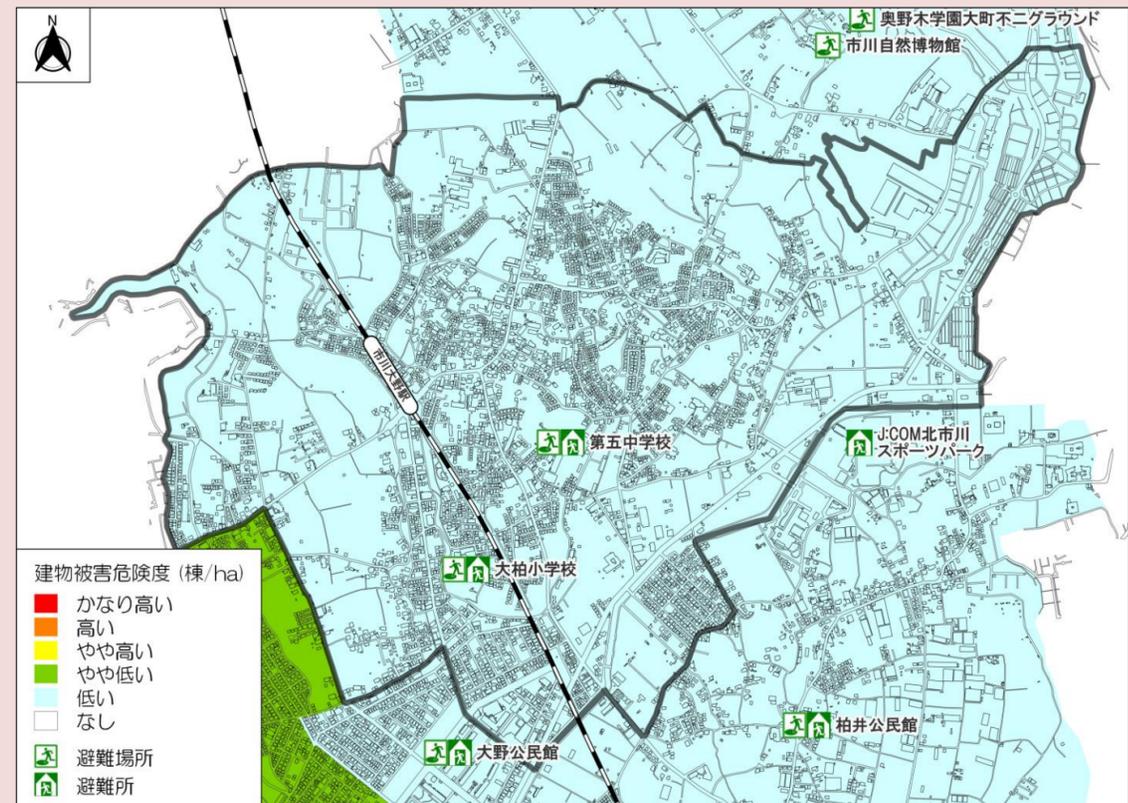
②震度分布図



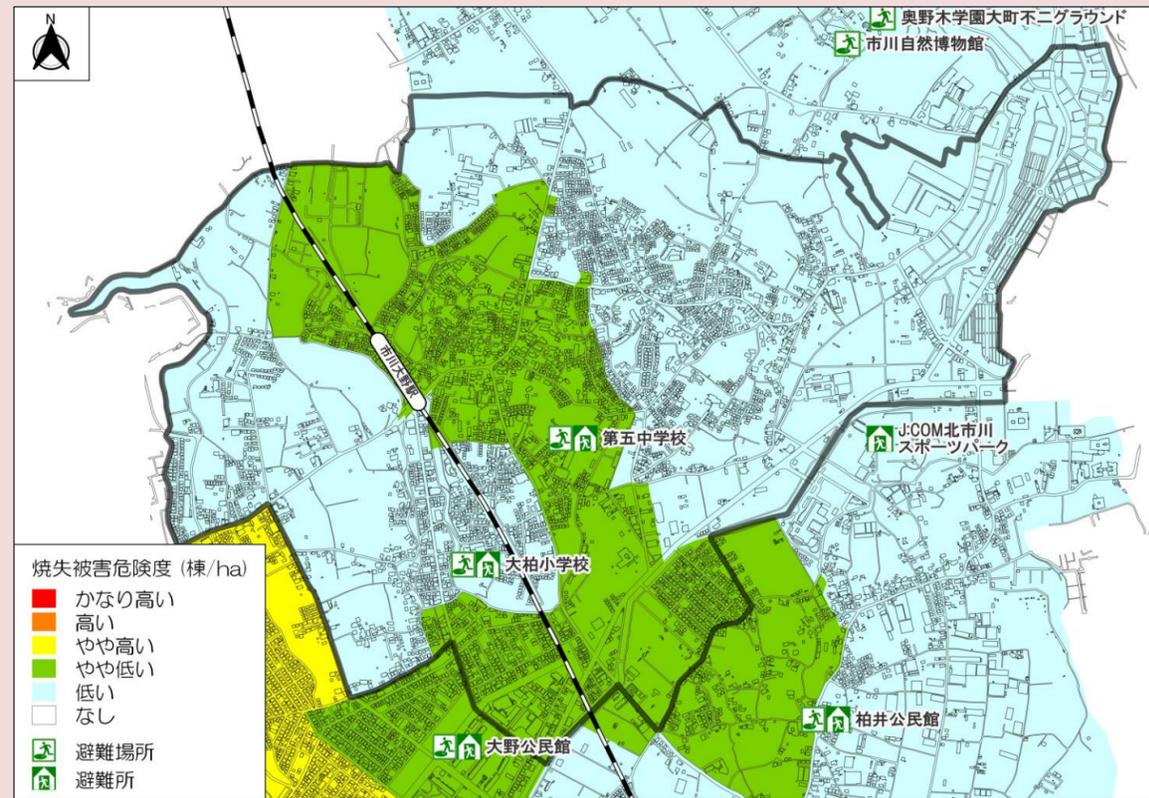
③液状化危険度



④建物被害（揺れ・液状化による被害）



⑤建物被害（延焼による被害）

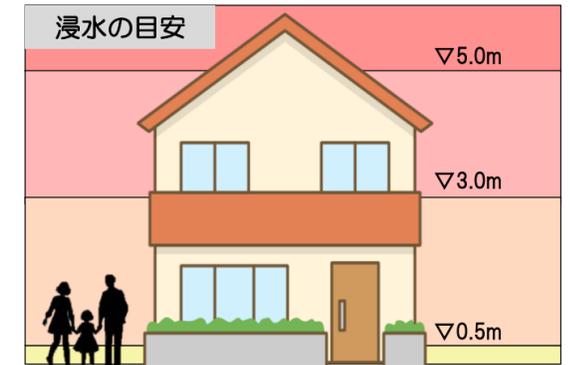
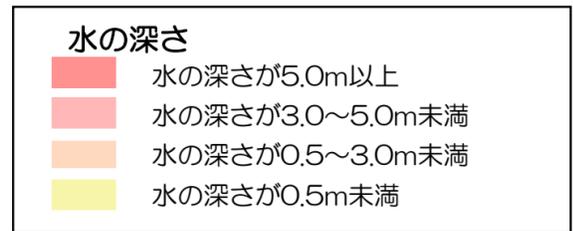


⑦浸水想定の概要

江戸川の氾濫及び真間川の氾濫、内水の氾濫、高潮による浸水想定区域を示しています。

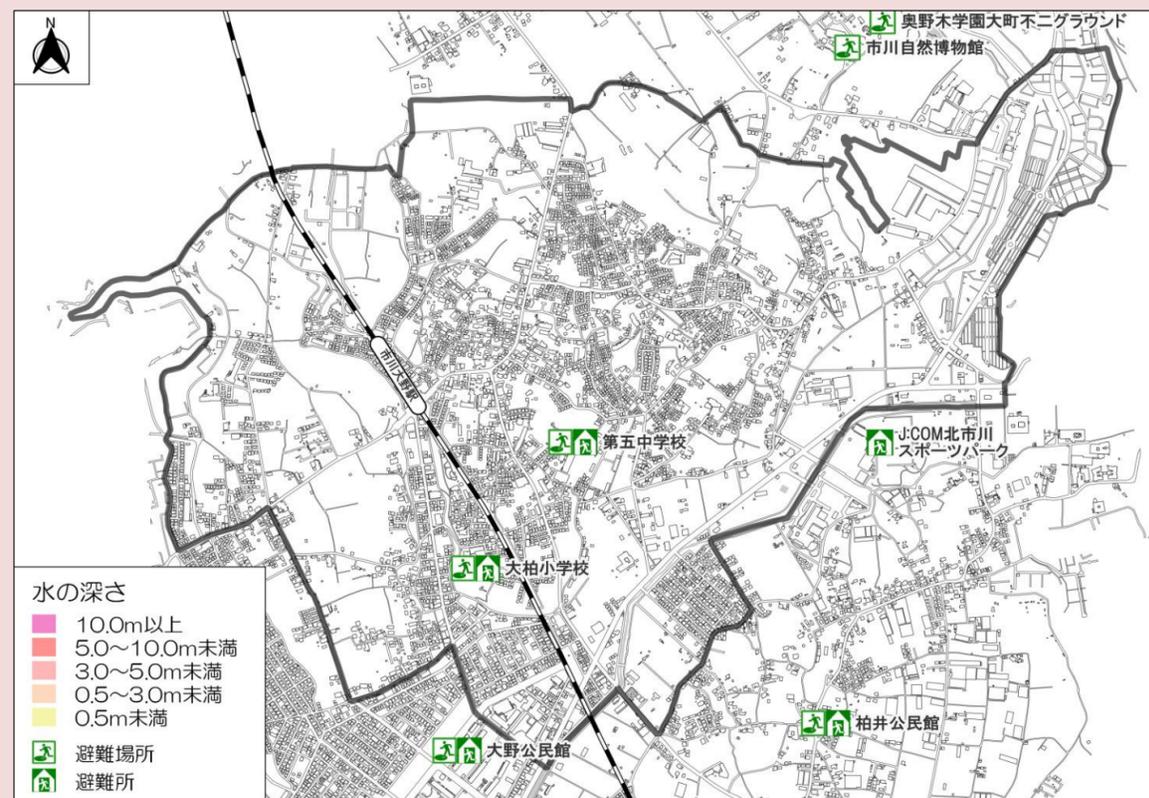
災害時にすばやく避難できるようにあらかじめ近隣の避難所及び避難場所について確認しましょう。

また、避難経路上の浸水状況も確認しておきましょう。



※浸水の凡例区分及び配色については市川市で任意に設定しています。

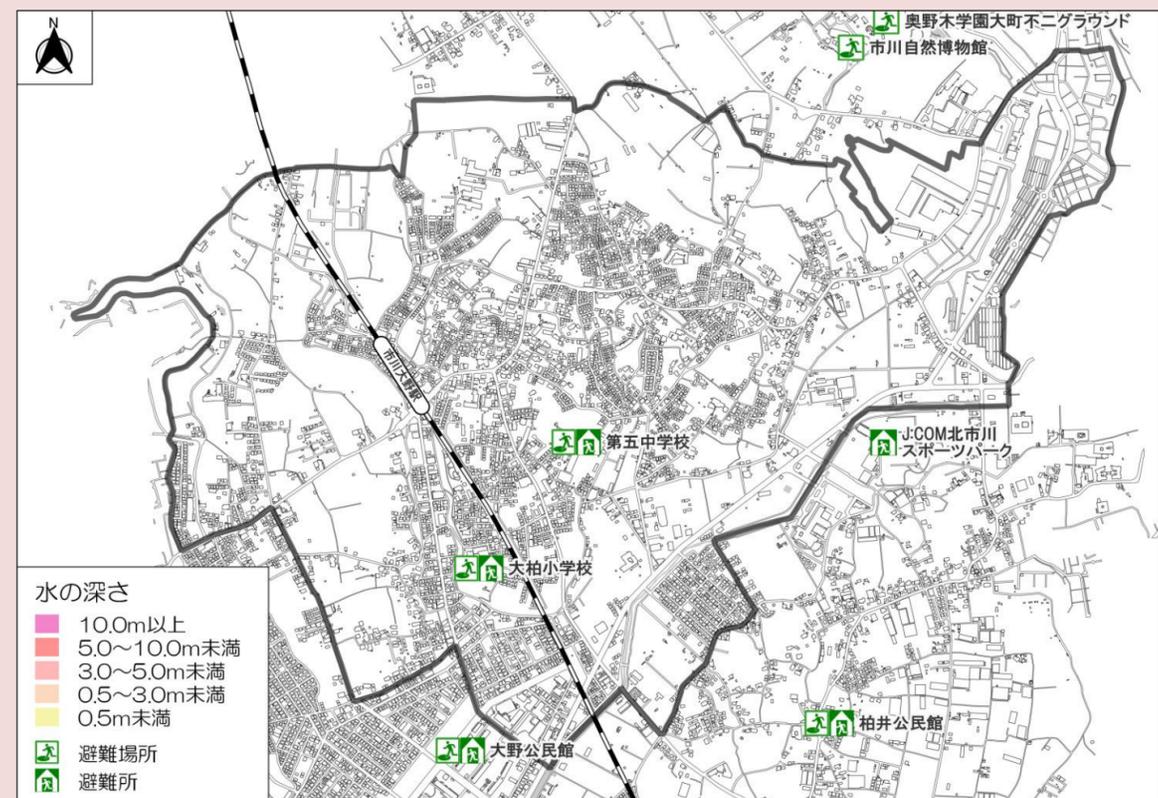
⑥津波による影響



※津波の河川遡上による市街地への影響はありません。

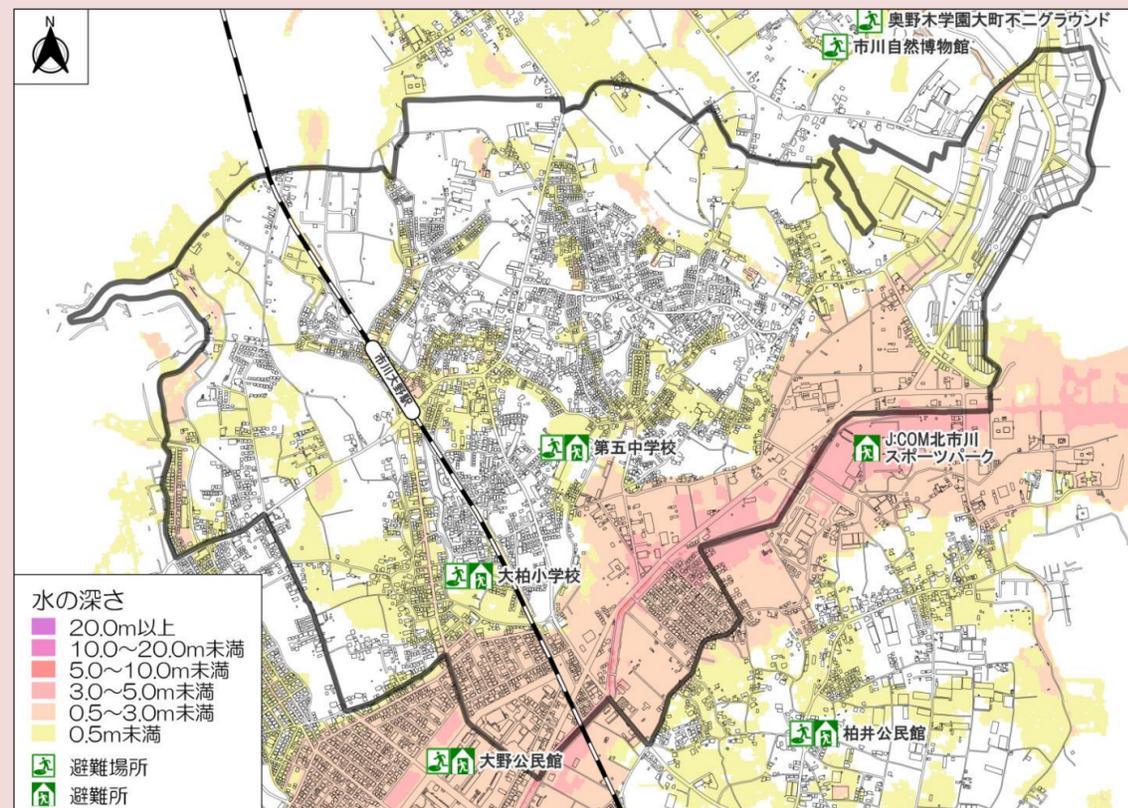
平成24年4月：千葉県

⑧洪水（江戸川）



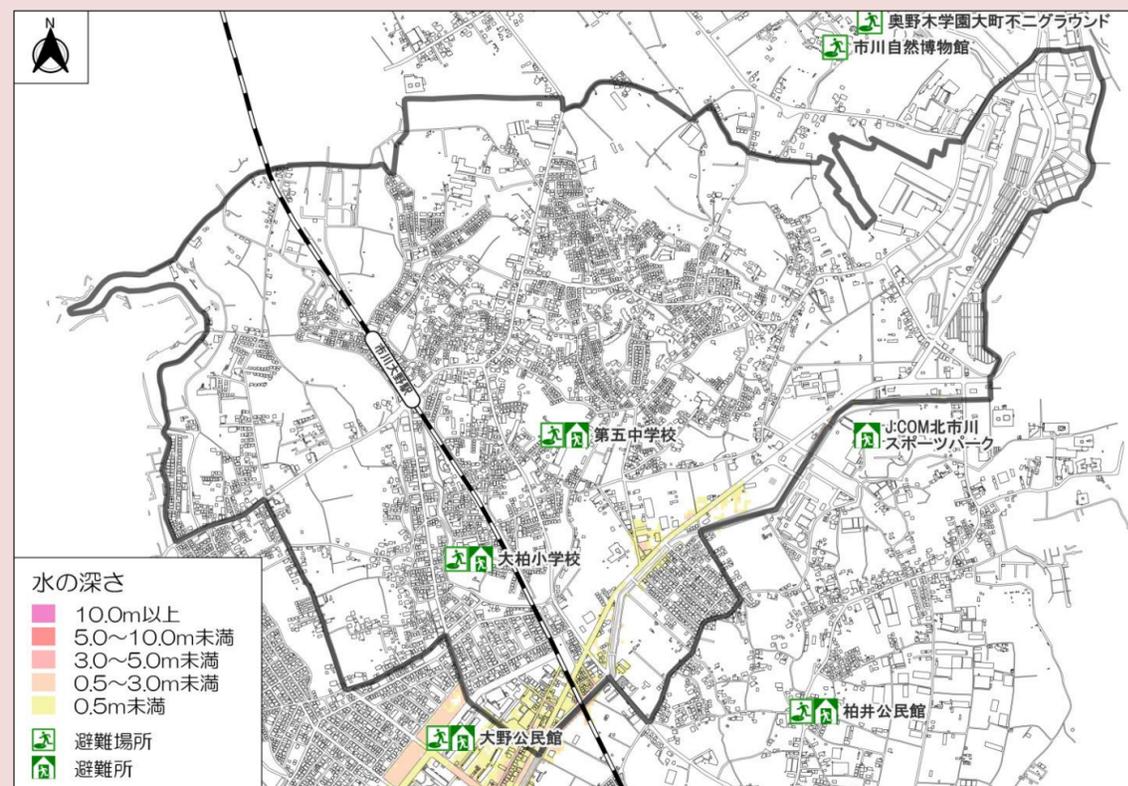
平成29年7月：国土交通省

⑨真間川水系・内水氾濫



令和元年：千葉県(真間川水系)、令和2年：市川市(内水氾濫)、令和4年：千葉県(小規模河川)

⑩高潮



平成30年11月：千葉県

◆メモ

